

第2回 容量市場の在り方等に関する勉強会 議事要旨

1. 開催状況

日時：平成29年5月30日（火） 14：00～16：00

場所：電力広域的運営推進機関 豊洲事務所 会議室A・会議室B・会議室C

出席者：

安念 潤司 座長（中央大学法科大学院 教授）

秋池 玲子 委員（ポストンコンサルティンググループ シニア・パートナー&マネージング・ディレクター）

秋元 圭吾 委員（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）

秋山 一也 委員（株式会社エネット 経営企画部長）

市村 拓斗 委員（森・濱田松本法律事務所 弁護士）

岡本 浩 委員（東京電力ホールディングス株式会社 常務執行役 経営技術戦略研究所長）

沖 隆 委員（株式会社F-Power 副社長）

菅野 等 委員（電源開発株式会社 執行役員 経営企画部長）

小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学研究科附属レジリエンス工学研究センター 准教授）

山田 利之 委員代理（東北電力株式会社 電力ネットワーク本部 電力システム部 副部長）

佐藤 裕史 委員（東京ガス株式会社 電力トレーディング部長）

津田 雅彦 委員（関西電力株式会社 総合エネルギー企画室 需給企画担当室長）

松塚 啓一 委員（伊藤忠エネクス株式会社 執行役員 電力・ガス事業グループ 電力・ユーティリティ部門長）

松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）

新川 達也 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 総務課長）

佐合 達矢 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引監視課長）

欠席者：

大山 力 委員（横浜国立大学大学院 工学研究院 教授）

坂本 邦夫 委員（東北電力株式会社 電力ネットワーク本部 電力システム部 技術担当部長）

林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）

圓尾 雅則 委員（SMBC日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）

恒藤 晃 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課長）

議題：

（1）容量市場の運用の流れと今後の議論の進め方について

（2）容量市場の趣旨・目的と、リクワイアメントの在り方について

資料：

（資料1）議事次第

（資料2）容量市場の在り方等に関する勉強会委員名簿

（資料3）容量市場の運用の流れと今後の議論の進め方について

（資料4）容量市場の趣旨・目的と、リクワイアメントの在り方について

（容量市場価格と電力取引市場の関係について）

2. 議事概要

- 事務局より、資料3に沿って、今後の議論の進め方について説明が行われた。
- 事務局より、資料4に沿って、容量市場の趣旨・目的、リクワイアメントの在り方について説明が行われた。
- 出席者の全員からさまざまな意見が出された。その概要は以下の通りであった。
 - ・ 新設電源と既設電源を分けて考えることの是非については、経過措置期間の対応とそれ以外とで切り分けて考える必要がある。まずは新設電源と既設電源の考え方について定義づけをすることが必要。また、経過措置期間の取り扱いは、投資判断の時期により議論をしていくべき。
 - ・ 電源の新陳代謝の在り方として、他市場も踏まえた競争原理に委ねるものであるのか、整理が必要である。
 - ・ 需要曲線の設定者、検証の在り方については論点。
 - ・ BG内の電源の差替えを認めるルールとすることは可能であるが、BG内の電源の差替えを認めると、支配的な発電事業者が圧倒的に有利となる可能性がある。
 - ・ 容量市場導入は、電力市場に与える影響が大きいため、シミュレーションが必要。
 - ・ 容量市場の目的は中長期的な供給力の確保であるとの認識は自然であるが、リクワイアメントの検討にあたっては、供給力としての評価と調整力としての評価を区別すべき。
 - ・ 容量市場において、新規投資に重点を置くのであれば、投資回収期間の設定における時間の感覚が重要。
 - ・ ペナルティは、安定供給が損なわれることのないよう設定されるべきであり、海外の例を踏まえつつ議論を進めていくと良い。
- 海外の事例参考として IEA の"Re-powering Markets"の紹介があり、勉強会終了後、NEDO 作成の日本語翻訳版が委員へ共有された。

以上